

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	133人	算数	133人	理科	133人
第5学年	国語	124人	算数	124人	理科	124人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

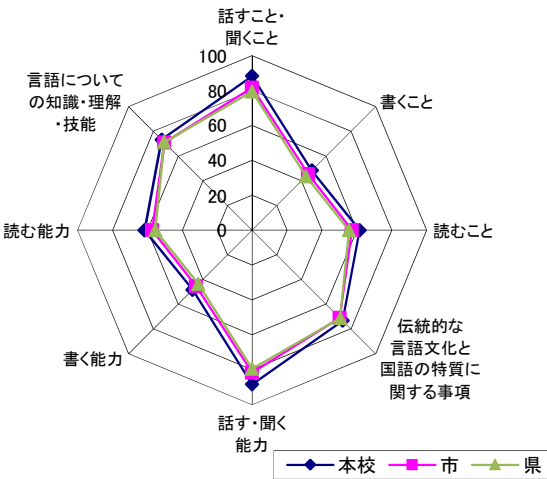
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.3	81.6	79.4
	書くこと	48.3	45.4	43.6
	読むこと	61.6	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.3	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	88.3	81.6	79.4
	書く能力	48.3	45.4	43.6
	読む能力	61.6	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	73.3	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

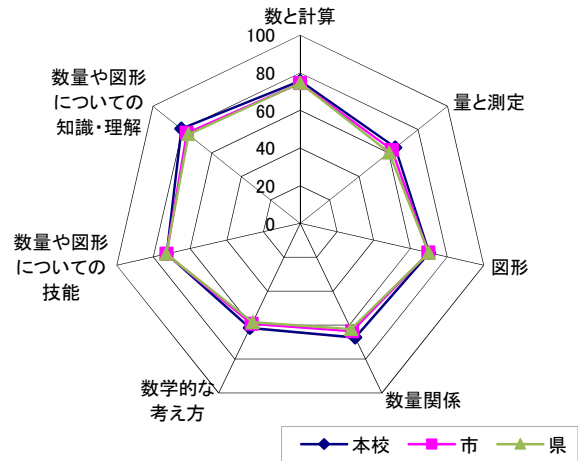
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市を6.7%、県を8.9%上回っている。 ○話し合いにおいて、司会者の役割を理解して進行し、発言者の理由として正しい選択肢を選ぶことがよくできている。 ●今までの話し合いについて、自分の言葉で記述するという点に課題がある。	・前の文章から後に続く文章として適しているものを選んだり、記述したりという活動を、教科書等を使って指導していく。それにより、選ぶことだけでなく、記述力を身に付けさせ、自分の言葉を考えるという能力を育てる。
書くこと	平均正答率は、市を2.9%、県を4.7%上回っている。 ○文章をまとめ、自分の言葉で記述するということがよくできている。重要な箇所に印を付けながら読むという指導の成果であると考えられる。 ●メモや友達の意見を基に報告レポートの内容を書くことについて、正答率が市よりも4.1%、県よりも2.7%下回っており、課題がある。	・今後も重要な箇所に印を付けながら読むという指導を徹底していく。 ・授業において自分の言葉を記述で表す際に、ただの記述で終わるのではなく、何文字以内や〇〇という文字を入れてといった条件を加えることにより記述力を育てる。 ・国語科だけでなく他教科での学習において、メモや意見を基にして文章にまとめる活動では、例文や定型文を示しそこに必要なことを当てはめて書くことができるような手立てをし、レポートを書く指導を意図的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、市を4.4%、県を6.1%上回っている。 ○叙述を基に、登場人物の発言の内容を捉える問題で正しい選択肢を選ぶことがよくできている。正答率が市よりも9.2%、県よりも11.2%と大きく上回っている。 ●文章構成を意識し、レポートの書き方の工夫として適当なものを選ぶ問題ではA層とD層の差が大きいため、課題が残る。	・書くことと同様、重要な箇所に印を付けながら読むという指導を徹底する。 ・日頃の音読活動を更に充実させるために、目標を作成させたり、音読の回数を可視化したりして、達成感を得られるようにする工夫をしていく。 ・レポート形式で書く学習で、レポートの文章構成の特徴が理解できるよう、分かりやすい例文や定型文の工夫をしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市を2.2%、県を1.9%上回っている。 ○正しい漢字を読んだり、書いたりすることがよくできている。朝の学習等で繰り返し指導した成果であると考えられる。 ●日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方に課題がある。	・今後も朝の学習時間を有効活用し、繰り返し学習をさせることに加え、誤りについて復習させることにより、定着を図らせる。 ・まずは、自分の名前をローマ字で書くことから始め、3年生時の学習の復習を取り入れながら、つながりを大切にしたい指導を工夫する。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.7	74.5	74.6
	量と測定	64.6	62.4	60.4
	図形	70.3	69.9	70.1
	数量関係	67.3	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	61.6	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	72.8	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	80.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

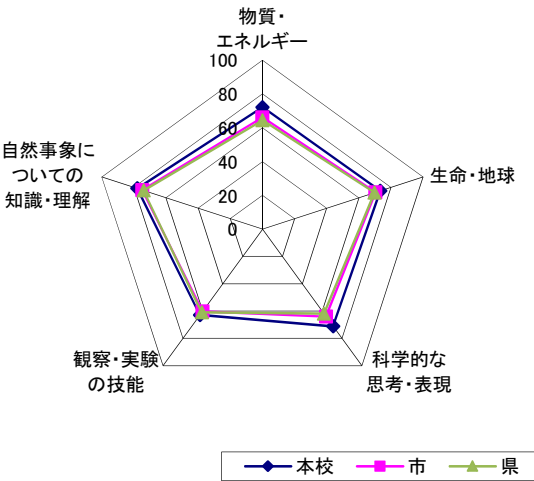
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市を1.2%、県を1.1%上回っている。 ○何倍かを求める計算では8.0%も市の平均を上回っている。()を使った式等でも、よく理解されており、正答率が高い。 ●3位数×2位数の計算や余りのある割り算の正答率が市の平均を下回っており、課題が見られる。	・今後も簡単な計算問題を繰り返し解かせていくことで、自信を持って取り組めるよう解き方の習熟を図っていく。 ・位が大きくなった数の計算については、かけ算九九の復習を徹底させ、単純な計算ミスを減少させることで、正解率をあげ、意欲的に取り組んでいけるようにさせる。 ・余りのある割り算については、生活に関係するような文章題を想定して思考させたり、具体物を操作させたりして指導を工夫する。
量と測定	平均正答率は、市を2.2%、県を4.2%上回っている。 ○はかりが示す重さを読み取る問題では、5.4%市の平均を上回っている。巻き尺の使い方も、よく理解されており、正答率は8.2%市の平均を上回っている。 ●重さの単位を選ぶ問題の正答率が市の平均を下回っており、課題が見られる。	・今後も問題を繰り返し解かせていくことで、自信を持って取り組めるよう解き方の習熟を図っていく。 ・重さや長さの単位については、生活の中での経験や問題を想定して思考させたり、はかりや巻き尺等を操作させたりして指導を工夫する。
図形	平均正答率は、市を4.4%、県を6.1%上回っている。 ○叙述を基に、登場人物の発言の内容を捉える問題で正しい選択肢を選ぶことがよくできている。正答率が市よりも9.2%、県よりも11.2%と大きく上回っている。 ●文章構成を意識し、レポートの書き方の工夫として適当なものを選ぶ問題ではA層とD層の差が大きいため、課題が残る。	・今後も直径や半径に関する知識を確実に身に付けさせるために、作図をさせたり、多様な問題に挑戦させたりしていく。 ・平面図から立体を想定させて考える問題については、模型や実物を操作して確認させ、立体に対する理解を深められるように習熟を図っていく。
数量関係	平均正答率は、市を3.7%、県を5.0%上回っている。 ○棒グラフの見方について説明する問題では、6.2%市の平均を上回っている。料金表から考える問題についてもよく理解されており、市の平均を上回っている。 ●時刻表から考える問題の正答率が市の平均を下回っており、課題が見られる。	・今後も表の見方について理解を深めるために、生活体験を想起させたり、類題を多く解かせたりしていく。また、説明する力を向上させるために、友達と自分の考えを伝え合ったり、多様な考えからよりよい考えに絞っていく話し合いをしたりする学習活動を行う。 ・時刻と時間については、時計の見方を復習させたり、多様な問題に挑戦させたりし、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.2	66.1	64.4
	生命・地球	73.3	70.4	69.8
小学校	科学的な思考・表現	71.2	64.1	61.9
	観察・実験の技能	62.9	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	77.9	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市を6.1%、県を7.8%上回っている。 ○電気の流れる通りの道の名称を問う問題では、15%以上も市の平均を上回っている。 ○実験結果からゴムをねじる回数と進む距離を考察する問題では、9.8%も市の平均を上回っている。実験とその考察を通して理解を深められたと考えられる。 ●日光を重ねたときの明るさと温度の変化の問題や、虫眼鏡で集光した所の明るさと温度の変化の問題では、正答率が市の平均を下回っており、光の性質についての理解に課題が見られる。	・実験を伴う学習では、予想、実験、結果の考察という過程を経て、自然事象に対する科学的な考え方を養うよう指導していく。 ・実験結果から分かったことを自分の言葉で説明したり、疑問に思ったことを共有したりする場を設定し、理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市を2.9%、県を3.5%上回っている。 ○昆虫の体の色とすみかの記録をもとに考察する問題では、10.9%市の平均を上回っている。また、昆虫が卵をうむ場所と食べ物とを関係付けて考察する問題でも市の平均を7.9%上回っており、実感を伴った理解ができている。 ○記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する問題では、8.2%市の平均を上回っており、観察を通して理解が定着したと考えられる。 ●虫眼鏡の適切な使い方を選ぶ問題では、正答率が市の平均を下回っており、課題が見られる。	・虫眼鏡の正しい使い方の確実な定着のために、活用幅を広げ、観察の道具に慣れるとともに、繰り返し正しい使い方を確認するよう指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習については、「家の人と話をしている」「学習に対し、自分から進んで取り組んでいる」「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という問いに対し、肯定的な回答の割合は市の割合より高い。学習に対する意欲的な態度が見られる。今後も学習意欲を持続させるような課題の出し方を工夫していきたい。

●学習に関連して、「家の人と将来のことについて話すことがある」という問いに対し、肯定的な回答の割合が市より低く8.1%だった。4年生としては、まだはっきり決めることではないが、将来的な展望が目標につながっていくことを考えれば、学級活動や道徳等の時間に様々な職業の紹介をしたり、あるべき理想像等を示したりして指導を工夫していきたい。

○社会的なことについては、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」「毎日の生活が充実していると感じられる」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という問いに対し、肯定的な回答の割合が高い。社会的な様々な事項について関心があり、自分の考えを深めていきたいと思っている児童が多い。今後も社会や道徳等の授業で取り上げ、より広く物事を考える体験をさせていきたい。

○学級については「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合ったり、クラスのきまりなどを決めていると思う」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という問いに対し、肯定的な回答の割合が高い。学級経営が上手くなされ、落ち着いて生活できているためであると思われる。今後も児童の一人一人が居がいのある学級を目指し、お互いの考えを認め合える学級作りに専念していきたい。

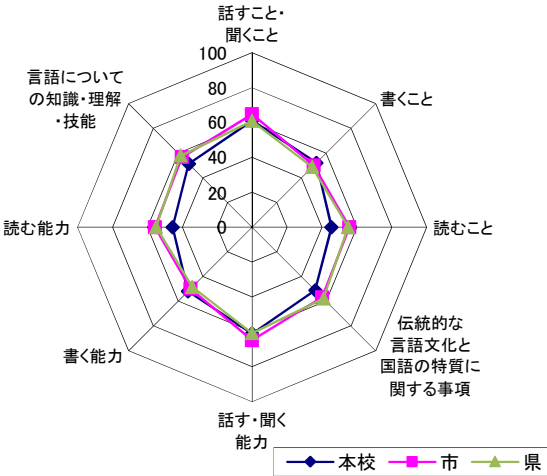
○家庭学習については、ほとんどの問いで、肯定的な回答の割合が高くなっている。今後も家庭との連携を図り、意欲的、持続的に取り組ませていきたい。

○学習方略や教科については、ほとんどの問いで肯定的な回答の割合が高くなっている。今後もインターネットや資料を利用して調べる時間を設定したり、奨励したりしながら授業を進めていきたい。児童が知識を得て、自信を持って授業に臨むことで、より思考力が向上できるように図りたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	61.0	64.7	60.8
	書くこと	52.0	49.9	48.6
	読むこと	45.5	55.7	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	51.2	56.8	57.9
観点	話す・聞く能力	61.0	64.7	60.8
	書く能力	52.0	49.9	48.6
	読む能力	45.5	55.7	55.0
	言語についての知識・理解・技能	51.2	56.8	57.9



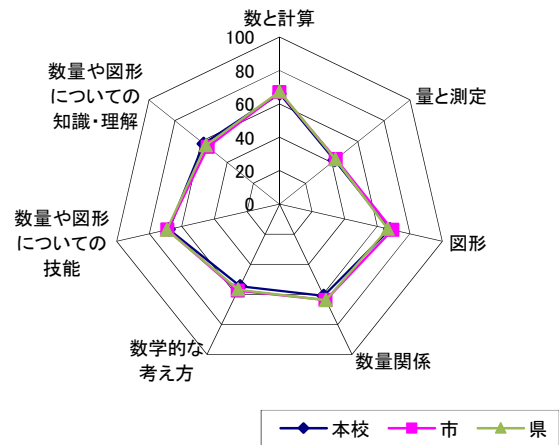
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市を3.7%下回り、県を0.2%上回っている。 ○話し合いにおける司会者など、立場の役割についてよく理解している。 ●話し合いの中での互いの意見の共通点を理解することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・互いの意見の相違点や共通点を意識させながら、話し合いを進められるようにする。話し合いの最中に、ペア学習等を取り入れ、出てきた意見を確認させたり、整理させたりして、内容の把握をしっかりと行えるようにする。また相違点や共通点を簡単にメモする活動を取り入れ、内容をより把握できるようにする。 ・他教科や学級活動でも同様の話し合いを行う。
書くこと	平均正答率は、市を2.1%、県を3.4%上回っている。 ○資料や表の読み取りから、分かったことを説明することができる。 ●条件を満たしながら、必要な内容を整理して書くことに課題が見られる。	・字数制限やキーワードなど、条件を与えた上で、作文を書く機会を増やす。また、書いたものを互いに読み合い、内容を吟味する活動を通して、よりよく書けるようにする。 ・他教科でも、日ごろから書く活動を増やし、書き慣れるようにする。日記や作文指導の回数を増やしていく。
読むこと	平均正答率は、市を10.2%、県を9.5%下回っている。 ○叙述を基に、登場人物の発言の内容を捉える問題で正しい選択肢を選ぶことがよくできている。正答率が市よりも9.2%、県よりも11.2%と大きく上回っている。 ●文章構成を意識し、レポートの書き方の工夫として適当なものを選ぶ問題ではA層とD層の差が大きいため、課題が残る。	・説明文では、中心となる大切な文を見つけ、短くまとめる活動をさせることで、要点を捉えられるようにする。また、その要点を生かして段落相互の関連を考えてまとめる活動をさせることで、要約できるようにする。 ・人物描写、情景描写が登場人物の心情を読み取る鍵となることに気付かせ、多様な解釈が考えられる部分を課題として取り上げ、話し合いを行うようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市を5.6%、県を6.7%下回っている。 ●漢字の読み書きに課題が見られる。 ●漢字の構成、漢字辞典の使い方に課題が見られる。 ●慣用句の使い方に課題が見られる。 ●ローマ字の読み方に課題が見られる。	・新出漢字を学習する際に、様々な読み方があることに気付かせ、漢字練習の仕方を工夫させる。宿題等、課題を出す機会を増やす。 ・漢字辞典を授業で活用する機会を増やし、辞典の使い方に慣れさせ、漢字の構成に目を向けられるようにする。ローマ字、慣用句ともプリント学習を中心に復習し習得を図れるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.2	66.9	67.4
	量と測定	42.3	43.2	43.0
	図形	67.9	69.4	66.5
	数量関係	61.0	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	54.5	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	68.0	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	58.0	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

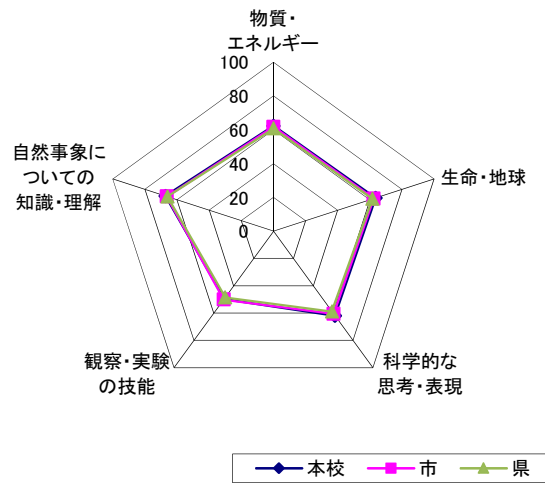
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市を0.7%、県を1.2%下回っている。 ○小数の内容がよくできている。小数が整数と同じ仕組みになっていることを理解している結果であると考えられる。 ●3桁×2桁の整数のかけ算、3桁ー2桁の小数のひき算に課題が見られる。	・5年生の学習内容にも小数の計算が出てきており、既習内容を踏まえうえで、新しい内容に取り組ませる授業を仕組んでいくようにしたい。 ・かけ算・ひき算に関しては、筆算時の位取りや小数点の表し方について復習し、繰り返し練習問題を解くことによって、定着を図る。
量と測定	平均正答率は、市を0.9%、県を0.7%下回っている。 ○基準値よりも比較量が大きい場面で何倍かを求めることが、よくできている。2・3年生を通じて「何は何の何倍か」の類似問題を指導した成果であると考えられる。 ●計算のきまり・変わり方調べで1つの式に表し、おつりを求める問題に課題が見られる。また、1㎡の正方形に1㎠の正方形が何枚か求めることに課題が見られる。	・設問の傾向を見ると、記述式の形式のところでは無回答の児童が多い。日常の中で、目的に応じて記述する場面を多く取り入れていきたい。 ・おつりを求めるような問題は、生活経験にも大きく関わる。実体験を通して身に付けていけるよう家庭にもお願いしたい。 ・面積は、辺の長さから単位をそろえて用いていくことを図式化して指導していく。
図形	平均正答率は、市を1.5%下回り、県を1.4%上回っている。 ○平面上のあるものの位置を表したり、平行四辺形を完成したりすることがよくできている。定義を理解し、作図練習を大切にしたい成果であると考えられる。 ●面積や角の大きさの問題で、説明を書き加えることに間違いが多く、課題が見られる。	・3・4年生の学習を基に、四角形・立体の復習を授業に取り入れながら、5年生の図形の学習を進める。 ・面積や角の大きさを求める方法は理解しているが、説明を書き加えることができないのは記述に抵抗があると考えられる。記述していく習慣が身に付くように、簡単な図形から定義を基に記述していくよう指導を工夫する。
数量関係	平均正答率は、市を2.7%、県を2.9%下回っている。 ○図や表から変わり方を考えて表にあてはめる数を求めることがよくできている。4年で学習した伴って変わる2つの数量関係の理解ができていると考えられる。 ●折れ線グラフと表で、正しくないわけを書くことに課題が見られる。	・計算の決まり・変わり方調べでは、数値を記号化することが弱いので、簡単な問題から記号化する方法を復習させる。 ・本学年の傾向として、「読む」力が弱いために、問題の文意が分からなかったり、問題文に示されていない言葉を記述する誤りが見られたりする。国語との関連を図りながら、指示されていることに正確に答えられるような力を育てるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.3	61.7	60.7
	生命・地球	63.5	62.4	61.6
小学校	科学的な思考・表現	61.9	60.6	58.9
	観察・実験の技能	49.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	67.2	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市を0.6%、県を1.6%上回っている。 ○「空気と水の性質」についての基礎問題では、平均正答率が8割以上であり、学習内容の基礎が定着していると言える。 ○電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係付ける活用問題では、10%以上も市と県の平均を上回っており、電気の働きについての理解が深まっている。 ●「金属、水、空気と湿度」の設問での平均正答率は、県を1.2%、市を0.5%下回っている。特に水の温度変化と体積変化を関連付ける問題に課題が見られた。	・各単元を通して、学習内容を日常生活に結びつけながら学習を進めていくことを重視していく。 ・全体的に、基礎的な部分は定着しているが、それらを応用して思考したり、現象を根拠付けて文章化したりすることに課題があることが分かる。そのため各単元において、実験結果から分かったことを根拠付けて文章化する機会を増やしていく。
生命・地球	平均正答率は、市を1.1%、県を1.9%上回っている。 ○「天気の様子」の設問での正答率は、市を2.0%、県を4.9%上回り、天気と気温の関係をグラフから読み取るような問題で特に正答率が高かった。 ○「季節と生物」の設問での平均正答率は、市を5.8%、県を5.4%上回り、身の回りの自然への理解が定着していると言える。 ●方位磁針の適切な使い方を選ぶ問題では、正答率が3割程度で、課題が見られる。	・方位磁針の正しい使い方の確実な定着のために、各単元で方位磁針を操作する機会を積極的に設け、繰り返し正しい使い方を確認するよう努める。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習については、「家の人と将来のことについて話することがある」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」「時間を上手に使うことを、心がけている」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」という問いに対し、肯定的な回答の割合は市の割合より高く、学習に対して意欲的に取り組んでいる様子が見られる。今後も学習意欲を持続できるように、授業展開や学習環境の設定を工夫していきたい。

●学習について、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という問いに対し、肯定的な回答の割合が市より低く、3.9%だった。今後は、学習課題を生活と関連付けたり、発展的な学習を工夫したりして、学習内容への興味・関心を高めていきたい。

○社会的なことについては、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」「人と話すことは楽しい」という問いに対し、肯定的な回答の割合が高い。社会に対する関心が高く、社会に積極的に関わっていきたくと考えている児童が多いといえる。今後も、道徳や特別活動において、自主性や創造性、協働性を育む活動を充実させていきたい。

○学級については「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていく」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という問いに対し、肯定的な回答の割合が高い。児童が協力して学級づくりに参加している姿がうかがえる。今後も、児童一人一人が「自分の学級は自分でつくる」意識を持続できるように、授業や学級活動、行事等を工夫していきたい。

○家庭学習については、ほとんどの問いで、肯定的な回答の割合が市より高いか、ほぼ同じとなっている。今後も、自主学習を工夫している取り組みを紹介するなどして、家庭学習に意欲的に取り組めるようにする。また、様々な場で家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図ってきたい。

○学習方略や教科については、ほとんどの問いで、肯定的な回答の割合が市より高いか、ほぼ同じとなっている。今後も、具体物を用いたり、体験的な活動を取り入れたり、対話的な活動を工夫したりなどして授業展開を工夫し、主体的に深い学びができるようにしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・考えをつなぎ合い、主体的に対話的な話し合いを行うようにする。 ・学び合いを通して、自分の考えを広げ深められるようにする。 ・主体的に自主学習に取り組めるようにする。	・話し合いのスキルの向上を目指し、「対話活動」を行う。 ・ペア学習・グループによる話し合いなど、目的に合わせた学習形態の工夫。 ・ハンドサインによる、個々の考えの表現。 ・「自主学習の進め方」を児童に提示したり、工夫している取り組みを紹介したりして、自主学習に意欲的に取り組めるようにする。	・児童質問紙調査から、「話し合う」ことに関わる学習への取り組みに対し、肯定的な回答の割合が高く、学校全体で取り組んでいる成果が見られる。また、国語「話すこと・聞くこと」でも県平均を上回り、効果が出ていると見られる。 ・児童質問紙調査から、「家庭学習」に関わるほとんどの問いについて、肯定的な回答の割合が高めであり、学習の進め方を示したことが有効であったと考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学習についての問いで、5学年では「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」が、4学年では「家の人と将来のことについて話することがある」が、肯定的な回答の割合が低めであった。このことから、児童は学習が実生活の中に生かされていったり必要であったりすることを実感できていないのではないかと考えられる。	・学習の振り返りの徹底。 ・生活に関連した課題設定。	・授業で学習したことによって、知識が増えたこと、理解が深まったこと、考えが広がったことを、児童が実感できる明確な視点を与えた上で学習を振り返らせる。 ・実生活に関連した課題を設定し、学習する内容が生活の中で生かされていることや自分たちが実践・応用できることがあると実感できるようにする。児童が学習したことに有用感を持ったり、より深く理解したいと意欲を持ったりすることができる授業づくりをする。